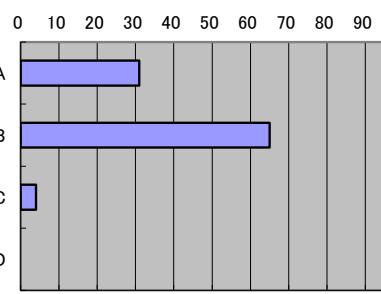
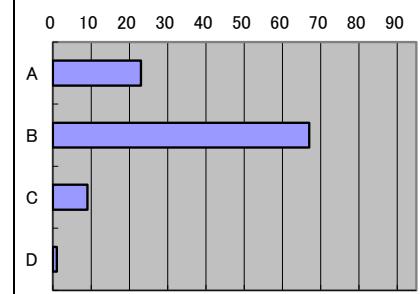
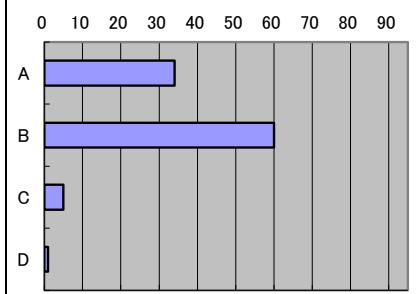
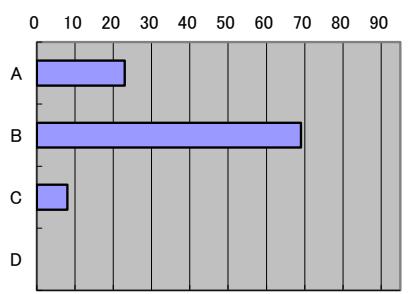
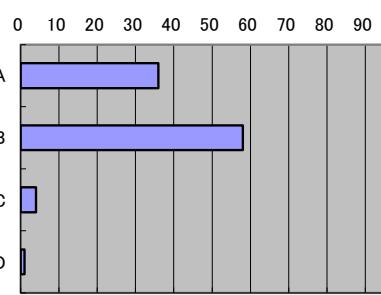
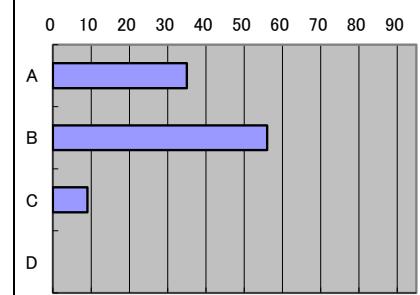
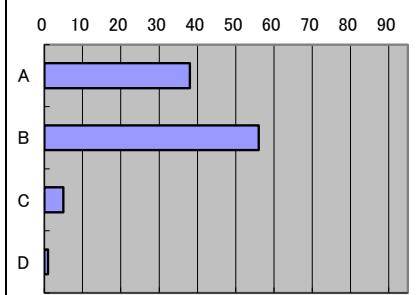
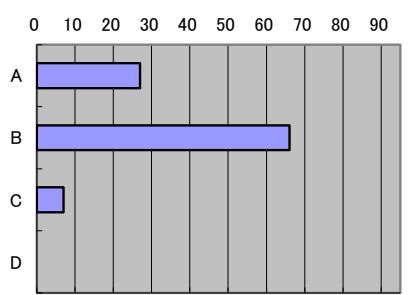
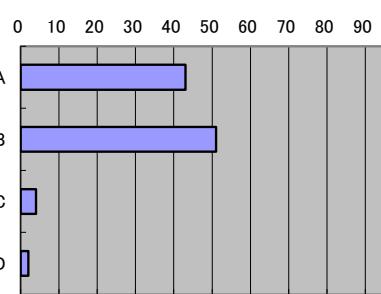
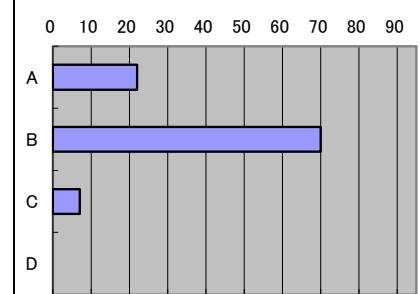
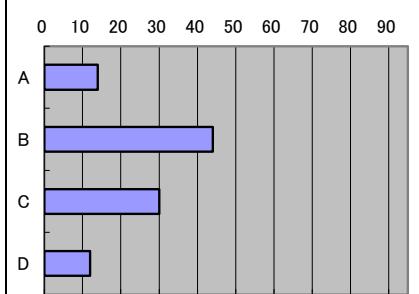
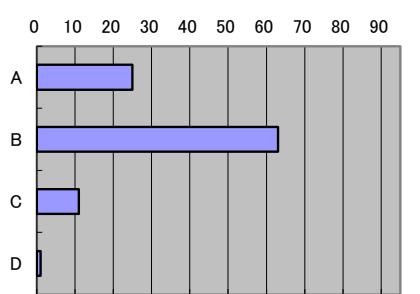
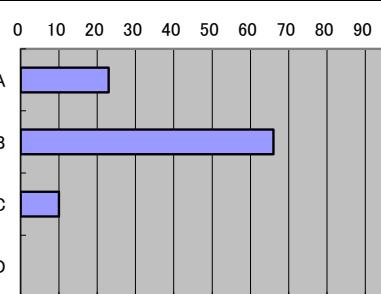
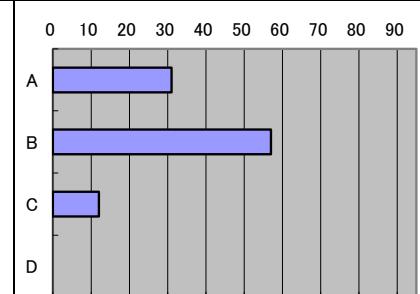


令和2年度 《保護者によるアンケート結果：7月期》

			
(1) 学校は教育目標や教育方針を明確に伝えている。	(2) 学校の様子、教育活動がよく理解できている。	(3) 学校は生徒の人間性や人権を尊重した接し方ができている。	(4) 学校は、様々な生徒指導上の問題を見過ごさず対応できている。
			
(5) 学校の雰囲気がよく、生徒がいきいきと活動している。	(6) 学校は諸活動(含む部活動)に意欲的に取り組んでいる。	(7) 学校は、保護者からの連絡や相談に迅速且つ適切に対応してくれている。	(8) 学校行事の時期は適切である。
			
(9) 開かれた学校として学校公開、学年だより、学級通信、学校ホームページなどで学校の様子を発信できている。	(10) 学校では楽しく、わかりやすい授業が行われている。	(11) 子どもの家庭学習習慣は定着し、自学自習ができている。	(12) 家庭では学校の話題など、子どもとコミュニケーションが図れている。
			
(13) 家庭では社会のルール、規範意識の高揚に努めている。	(14) 新型コロナウイルスによる休業期間中の学校の対応(家庭学習・保護者や生徒への連絡・情報の提供等)は適切であった。		
昨年度に引き続き、三者懇談会に来られた保護者からアンケートを実施した。全般的に昨年度と比べるとほとんど傾向は変わらず、全体的にはA、B評価が多く、全般的に一定保護者の理解を得られていると感じる。			
中でもA評価が多かったのは設問(9)の「開かれた学校として学校公開、学年だより、学級通信、学校ホームページなどで学校の様子を発信できている。」は43%と昨年度より上昇している。一方設問(11)の「子どもの家庭学習習慣は定着し、自学自習ができる」との項目では減少傾向はあるが、依然としてCD評価が42%を超える結果となり、非常に高いことが気になるところである。生徒評価でも家庭学習の項目が気になるので、家庭での自学自習の取組が学力向上にも繋がることから、さらに徹底する必要がある。設問(12)の「家庭では学校の話題など、子どもとコミュニケーションが図れている。」では昨年度よりAB評価が上昇している。設問(14)「新型コロナウイルスによる休業期間中の学校の対応(家庭学習・保護者や生徒への連絡・情報の提供等)は適切であった。」では12%の保護者がCという結果だったので真摯に受け止め、今後も各家庭の協力を得ながらも同じ方向性で連携をとっていきたい。			